

アクセス方法

<車>
 練馬IC→関越自動車道(約2時間)→沼田IC→(約1時間)
 →片品村→国道120号→国道63号(約40分)→鳩待峠

<バス>
 (関越交通/バス)
 新宿駅南口→(バス約3時間40分)→尾瀬戸倉
 →(約バス25分)→鳩待峠

<電車>
 東京駅→(上越新幹線 約1時間50分)→上毛高原駅
 →(バス約1時間10分)→尾瀬戸倉→(バス約25分)→鳩待峠

memo



小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 118

尾瀬を背負いて
～群馬県 片品村～

2013年11月3日(日)放送

小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>



片品村では、尾瀬の水の恵みを受けて人々が暮らして
 います。江戸時代から村人たちが大切に守り続けてきた
 湧き水『観音様の水』。ごはんを炊いたり、お茶を
 淹けたり、あるいは煙草に咲く花にもこの水を与えています。
 「本当の孫のようにかわいい」と千明さん。野菜の差し
 入れ以外にも料理の仕方(しかた)を教えるなど、
 家族のようにつきあいをしています。村の温かい人々の
 厚外から汲(く)みこる人も年々増えています。
 来た人たちが気持ちよく使えるようにと、月に1回
 村の人々が集まって掃除をし、大切に守り続けています。

尾瀬の恵みとともに

旅の見どころ 3



尾瀬の麓の片品村に、歴代の歩荷たちが暮らしてきた
 長屋があります。歩荷たちを10年以上温かく見守り
 続ける千明さん(82歳)。長屋のすぐ隣にある
 畑で野菜を作り、週1回差し入れをしています。
 「本当の孫のようにかわいい」と千明さん。野菜の差し
 入れ以外にも料理の仕方(しかた)を教えるなど、
 家族のようにつきあいをしています。村の温かい人々の
 厚外から汲(く)みこる人も年々増えています。
 来た人たちが気持ちよく使えるようにと、月に1回
 村の人々が集まって掃除をし、大切に守り続けています。
 心に残れた歩荷たちは「この場所です」と喜らした
 いと感じるようになっていきます。

心あたたまる交流

旅の見どころ 2

旅の見どころ 1

尾瀬を支える歩荷

歩荷の人数は6人、全員県外から来た人たちです。
 年齢も25～55歳とさまざま。今年は大坂出身の
 新人も加わりました。全員で手分けし10ある尾瀬の
 山小屋に食料品や燃料を届けます。山小屋に泊まる
 お客さんがおいしい食事ができるのは、毎日歩荷が
 重荷を背負い、届けているからです。雨の日も風の日も
 「待っている人達がいる」と黙々と歩き続けます。
 歩荷は春から秋まで尾瀬で働き、冬になると別の仕事を
 求めて移っていきます。

